

福島大学大学院 人間発達文化研究科
地域文化創造専攻スポーツ健康科学領域

スポーツ哲学研究室

小川 宏

<研究室紹介>

福島大学スポーツ哲学研究室では、体育・スポーツの意義や目的について考えを深め、現代社会における体育やスポーツの課題を解決すべく、福島県教育委員会などの外部機関と協力しながら研究を進めています。

<現在の研究>

1,健康・運動ライフログ「自分手帳」のアプリ化、及び活用促進効果の検証(科学研究費助成事業 基盤 C)(R3~R5)

福島県では東日本大震災後の屋外での運動制限により子どもたちが運動不足になり、体力、運動能力の低下と肥満児童の増加が問題となっていた。そこで県内全ての児童生徒に、自分の健康や体力、食生活の状況を小学校1年から高校3年までの12年間継続して記録していく「自分手帳」が配布されている。



「冊子版自分手帳」

しかし、この自分手帳は思うように活用されていない。手帳は個人情報に記載されているため、記入時以外は教員が学校で保管する。よって児童生徒が自由に手帳を見ることができない。また、1年間に記録できるページはごく限られており、気軽に記入できない等、紙媒体であることによるデメリットが指摘されている。

そこで本研究では、この自分手帳をデジタル化し、導入における課題や活用促進効果を検討する。課題を整理しデジタル化による活用促進効果を明らかにできれば、福島県で活用するのみならず、ICT 教育と関連させた児童生徒の健康・体力情報記録ツールとして全国的に普及させることが可能になる。また学校期だけでなく、大人になってからも運動と健康を記録するライフログとして広く活用できると考えられる。

2.学校体育におけるバレーボール授業の実態調査及びゲーム分析

体育授業におけるバレーボールは、「ラリーが続かない」「運動量を確保できない」「パスやスパイクなどの技術が難しい」「サーブが入らないし、入ったとしてもレシーブできない」など、指導が難しい種目と考えられています。

そこで、中学校などで展開されているバレーボール授業のゲームがどのような状況になっているか実態調査をしています。この調査結果から、中学校でのバレーボール授業の課題と対策を明らかにしたいと考えています。

<研究室 OB 紹介>

澤口尚平:聖和学園高等学校教諭(平成 30 年度修了)

修論テーマ:「ボトムアップ方式による部活動指導の可能性について—トップダウン方式との比較から—」

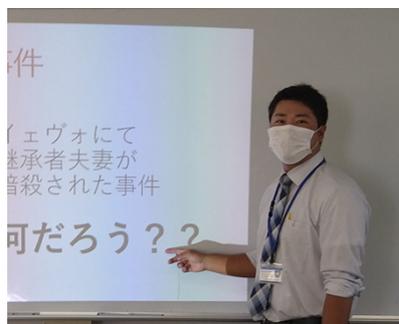
～澤口君から一言～

私は大学卒業後、すぐに教員として、クラス運営や授業はもちろんのこと、部活動指導にも力を入れたいと考えていました。ですが、もっと、部活動指導について学び、知識を深めたいという強い気持ちから大学院への進学を決めました。

研究テーマは「ボトムアップ方式による部活動指導」で 2 年間研究に取り組みました。「ボトムアップ方式」とは、生徒たちの自主性を重んじ、メニューや練習テーマを生徒たちが決めるなど、「自主性・主体性」を育てることができる部活動運営です。

研究の過程で「ボトムアップ方式」に出会い、全国の高校野球の強豪校を対象にしたアンケート調査や高校野球経験者へのアンケート調査などを行い、生徒の自主性・主体性を育てるうえで、「ボトムアップ方式」の指導は有効であることが分かりました。

研究は、研究室の中だけではなく、実際に高校野球のコーチングの現場を歩き来して、理論と実践を結びつけることも大きな研究成果となり、現在の部活動指導はもちろんのこと、授業のアクティブラーニングにも応用し、手応えを感じています。また、宮城教育大学や山形大学の生徒たちとの研究発表会、交流会も貴重な体験でした。様々な視点の意見を聞くことができ、交流会のときにもスポーツについて熱く語りあったことも良かったです。



大学院での2年間は、とても有意義で、大学生活の4年間では経験できないものばかりでした。研究の中で、苦勞ももちろんありましたが、それ以上に得るものがありました。今後もボトムアップ方式の指導を進化させ、生徒たちの成長にもつなげる指導を実践していきたいと思ひます。皆さんもぜひ、大学院に進み、専門性を深めるという道も視野に入れてみてください。

<研究業績等>

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 共同研究：「福島県教育庁刊行『ふくしまっ子健康・体力自分手帳』のデジタル化に関する研究」2019/12/09-2020/03/31
研究代表者
2. 科学研究費補助金：「小学生の体力・運動能力を向上させる運動プログラムの普及方策と効果の検証」研究代表者 2014/04-2018/03（基盤C）

書籍等出版物

1. 令和2年度福島県児童生徒の健康、体力、運動能力の現状分担執筆福島県教育委員会福島県教育委員会 2021/03/31
2. バレークロニクル バレーボール年代記分担執筆日本バレーボール学会 編日本文化出版 2017/02
3. Coaching & Playing Volleyball 分担執筆河部誠一バレーボール・アンリミテッド 2015/05
4. 現代スポーツ評論 30 特集：東京オリンピックがやってくる分担執筆友添秀則・清水諭創文企画 2014/05
5. <改訂>運動身体づくりプログラム DVD 福島県教育委員会福島県教育委員会 2014/03

論文等

1. 震災前後の福島県内小学生の体力・運動能力の変化～平成22, 23年度の体力・運動能力テスト結果の比較～ 小川 宏、菅家 礼子 スポーツ教育学研究(共著) 2018/02
2. 固定イメージからの脱却 小川 宏 日本体育学会体育哲学専門領域会報(単著) 2017/05

3. Philosophy of Coaching:Keynote Speech of the 2015 International Conference on the Philosophy of SportHiroshi Ogawa 運動文化研究(単著) 2016/06
4. バレーボールのラリーポイントシステムにおける得点に関する研究-高校チームの静岡県大会を対象にして- 高根信吾他 バレーボール研究(共著) 2013/06

講演・口頭発表等

1. 体育授業に運動プログラムを普及、定着させる方策について～福島県内小学校に導入した「運動身体づくりプログラム」を例として～日本スポーツ教育学会第36回大会 2016/10/16
2. “Philosophy of Coaching” 2015 International Conference on the Philosophy of Sport 2015/11/10
3. バレーボールの授業におけるポジションの役割 —戦術学習の基礎となるボールを持たない動きについて—日本スポーツ教育学会 2013/10
4. バレーボールにおけるブロック枚数とディフェンス効果の関係について日本バレーボール学会 2013/02
5. 震災前と震災後の子どもたちの体力・運動能力の変化について～H22とH23の体力テスト結果から～日本スポーツ教育学会 2012/11

～大学院進学を考えている人へ～

福島大学スポーツ哲学研究室では、現代社会における体育やスポーツの身近な問題について、なぜ？ 一体どうして？ ではどうすれば良い？ をじっくり考えてみたい人を募集しています。

学生の皆さん、大学を卒業してすぐ就職するのも良いですが、プラス2年間、大学院で自分が追求したいことにじっくり取り組んでみませんか？

福島大学教授 小川 宏